

【パネルディスカッション2】

テーマ：「宇宙ビジネスの可能性」

パネリスト

- ・新谷 美保子（一般社団法人スペースポートジャパン 理事）
- ・高山 久信
（一般社団法人おおいたスペースフューチャーセンター 専務理事）
- ・村上 憲郎（公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 理事長）
- ・石井 孝和（日本電気株式会社 電波・誘導事業部 シニアエキスパート）
- ・上津原 正彦（株式会社 QPS 研究所 執行役員 技術部長 工学博士）

コーディネーター

- ・佐藤 元彦（大分県 商工観光労働部 先端技術挑戦課長）

【趣旨】

多面的な視野から、水平型宇宙港×先端技術×DX という、衛星データの活用まで含めた全体的な宇宙ビジネスについて、どのような明るい未来になり得るのか、また私たちはどのような関わりが持てるのかをディスカッションする。

【概要】

[上津原様]

- ・スペースデブリについて、仮説やそれに基づいた観測、検証を行っていた。人工衛星を含めた宇宙技術は地上で立てた仮説と、それを打ち上げて運用する形であり、それは大変モチベーションが高まる。
- ・人工衛星を作る中で感じることは、技術が標準化されてきている。その恩恵を製作する際受けており、コストや期間も短縮できる。また、打ち上げ機会について、色々なものの相乗りでは細かなニーズに対応できないため、小型

ロケットの打ち上げサービスが増えてくると思う。

- ・データについて、地球をより高頻度、高精細、波長などで観測し、そのデータを展開することができており、それによってよりパーソナルなデータにより、色々なサービスやビジネスができてくると思う。
- ・宇宙でやりたいことを考え、それを叶える手段を今あるハードウェア、データを組み合わせることも大切。

[石井様]

- ・自分は、夢を持って色々なことに取り組んだ結果、宇宙にたどり着けた。衛星のデータを利活用する①通信サービス関係②測位：高精度測位機能を活用したサービス③リモートセンシング：光学衛星等が主である。③は、防災例えばmm単位の地盤変動なども把握できるこのため、広域のインフラ維持管理に活用する動きもある。これから延びていく市場なので、NECも大分県と一緒にやっていきたい。
- ・大量のデータをどう扱うのかが大切なので、プラットフォームを構築。例えば大分県であれば都市のOSスマートシティ、スーパーシティ（衛星データ、お客様データ）を作り、AIなどを使うことなども考えられる。

[村上様]

- ・若い人には「興味を持って、ワクワクしながら、取り組んで勉強してほしい」と思う。

[新谷様]

- ・宇宙ビジネスは日本が大幅に遅れているが、その覇者は決まっていないので、デブリ回収などなくてはならない産業分野を取っていく必要がある。このため選択と集中分野を決めてそこを日本が取っていくことが大切である。色々なプレイヤーがあって産業が成り立つので、若い人が今後色々なことに関わって日本の宇宙産業に貢献していただきたい。

[高山様]

- ・ QPS がモノづくりで先行しているが、多くのものを標準化して製作するなどのニーズが出てくれば、大分県内でQPSのOEMで製作するなども良い。
- ・ 各省庁でのプラットフォームも作っているが、オープンになっていないので、リンクさせる技術が必要。大分もエジソンというプラットフォームがあるので、オープンにしていく必要がある。横串を通したり、サーチする必要がある。また、衛星データを使うという人が足りていない。課題解決は地域ごとに違うので、使う衛星データも地域によって何を使うか考える必要がある。
- ・ 自分は会社の領域を超えて、新たなことにも取組み、社団法人を作った。そのような場では、色々な違う領域の人と議論をして刺激を受けることが大切。レベルに併せて外に出ていき、宇宙に関する説明、交流をする場を作っていくことが大切。「おおいたスペースフューチャーセンター」をそのような場で活用してほしい。

[新谷様]

- ・ 若い人には勉強ではなくても良いが、自分がやりたいことについて時間を大切に、毎日を大切にしていってほしい。